



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、
方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学講師、日本語教師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員

著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）

「おもしろ えちご塾」（恒文社）

「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」

（人間の科学新社・共著）

「明治大学政経論議 2016年度（新潟美人）」（明治大学政治経済研究所）等

「辞書にあることば・ないことば」

広辞苑が改訂されました（2018. 1. 12発行）。第七版です。本棚の場所をとるからといって（本好きは減多に実行しないとは思いますが）、第六版は処分してはいけません。なぜか？それは方言、それも新潟のことばが載っているからです！何ということばか？なんと「じゅんのび」ということばです。

じゅんのび [じゅん伸び・じゅん延び]

（新潟県で）ゆっくり休んでくつろぐさま。

と、ご丁寧にならぬ新潟県で、と明記して解説してあるのです。

筆者の調査や周囲の新潟人の発音は「じょんのび」とジョン派が大多数ですが、広辞苑さまはジュン派のようです。普段、他人の発音やアクセントを気にかけて密かにチェックする嫌らしい癖のあるワタクシですが、この際ジョンでもジュンでもかまいません。とにかく、東北弁や関西弁と比べていまひとつ認知度の低い新潟のことばが掲載されているというのは驚異です。しかもちょっと嬉しい気分です。それも、なじらね や しかもか や ふつつ を差し置いて堂々の広辞苑入り！

なぜこのことばが掲載されたのか？新潟ゆかりの人が編者にいたのか？しかも「じゅんのび」、おまけに新潟の方言と一切書かず“新潟県で”と括弧付きで…。と果てしなく疑問がわいてきます。これは他のことばも調べてみなければならぬ、調べてみよう、そうしよう、と思ってじょんのびしているうちに、文字通り延び延びになってしまいました。そうこうしているうち、今度はまたとんでもないことばに出くわしました。「人繰り」ということばです。今度は広辞苑にも、それ以外の我が辞書にも載っていないことばです。

「人繰りで多忙である」。

最初このことばを目にしたとき、我が目を疑いま

した。たまたま某所で人形浄瑠璃をみたばかりであったせいか、「人繰り」の繰の文字が「操り人形」の操に見えてしまったのです。「人繰りで多忙？？」。他人を操る？人心操作？そんな恐ろしい業務があったのか？それも白昼堂々公言実行とは？AI導入のロボット操作か？いや、人形遣いか？文楽か？マリオネットか？異業種参入とはいえ、そんな興行事業まで着手するのか？もしや地域貢献で催事開催か？それとも職場内親睦隠し芸大会の練習か？…頭のなかで「人繰り」の映像が次々と出現してきます。会う人ごとに聞き込みをしたのですが、自称物知りマンも首を傾げるばかりであります。

さあなんだろう？八方手を尽くし、頭をフル回転させたあげく、やっと判明したのは「辞書にないことば」の存在でした。なんでも昨今の日本社会では「人手不足」が問題視され「人材確保」が重要課題。業界では「資金繰り」と並び「人繰り」（ひとぐり）におおわらわ。というわけで、どうやら働き方改革が叫ばれる昨今に誕生したことばのようです（諸説あり）。糸偏と手偏を見誤ったこちらもとんときとはいえ、「ひとあやつり」は陰謀めいて怖い「ひとぐり」という語感がまだ馴染みがないせいか、なんとなく耳にも目にもざらついた違和感があるのも、まだ辞書にないことばのせいかも知れません。辞書にあることば・ないことば、ことばは生きてると実感した次第です。

※広辞苑 第六版・第七版（岩波書店）

※「じょんのび」については本誌2014年6月号参照。

※本稿に出てくることばの解釈には諸説あります。

